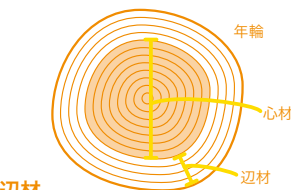


げんぼく 原木市場



山で伐採された木は、素材生産者によって玉切りされ原木市場に持ち込まれます。市場には木が、あるところは1本、あるところでは何十本と山にされています。素人目にはその長さや太さくらいしか違いがわかりませんが、市場では木の善し悪しを見極め、ひとつひとつの山が利用目的別に質が均一になるように仕分けているんです。さあ今日もセリが始まります。売る方も買う方も真剣勝負！鋭い目が光ります。

用語解説



辺材
木口の外側部分、心材の周りの白い部分のことで、心材より価格が高い。『白太』とも呼ばれます。

椴積(はいづみ)

丸太や製材品を積み重ねておくことをいいます。市場では、その木が柱、梁、桁、板など、どのように利用されるかを見極めて仕分けて椴積みするそう。木を見る目がかなり必要なんだとか。ひとつの山を浜と数えます。

木口(こぐち) 木を輪切りにした断面。
末口(すえぐち) 丸太の細い方の木口。
元口(もとぐち) 丸太の太い方の木口。

年輪

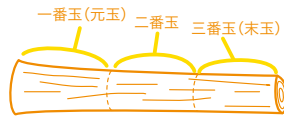
木口に見られる円状の模様で、毎年一輪ずつ形成される成長輪。色が白い部分は木が春から秋にかけて形成された部分で、色の濃い部分は、冬に形成された部分。

心材

木口の中心部分の、周りより色の濃く赤っぽく見える部分のことで『赤身』ともいいます。心材は辺材に比べて腐れにくいとされています。なかにはここが黒いものもあり、強度に違いはありませんが、黒いものは嫌われてしまうそう。

丸太の材積

材積とは体積のことで立方メートル(m³)単位で表します。計算方法は、末口直径の二乗 × 丸太の長さ。例えば、末口直径25cmで長さ4mの材積は…
 $0.25m \times 0.25m \times 4m = 0.25m^3$ この丸太4本分で1m³です。

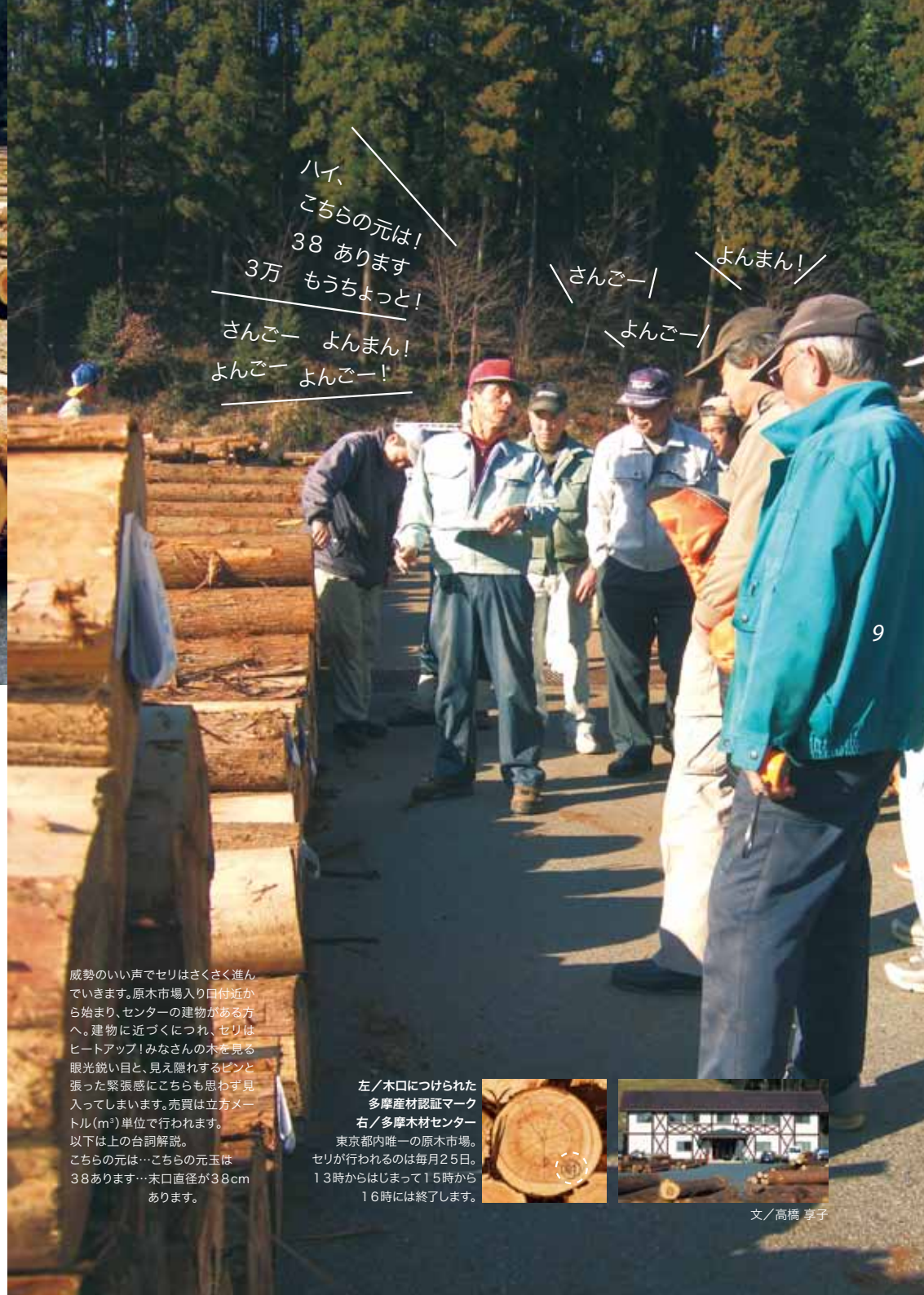
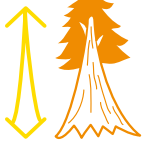


一番玉(元玉)

根元に一番近い部分の丸太のことです。元玉とも呼ばれます。直径が大きく節も少ないですが、材質は二番玉の方が良いことがしばしば。先端に近づくに従って二番玉、三番玉…末玉と呼ばれます。

梢殺(うらごけ)

木の幹が根元ほど太く、上方部分ほど細い木のことを梢殺と呼びます。



ハイ、こちらの元は！
38 あります
3万 もうちょっと！

さんごー よんまん！
よんごー よんごー！

さんごー！ よんまん！
よんごー！

威勢のいい声でセリはさくさく進んでいきます。原木市場入り口付近から始まり、センターの建物がある方へ。建物に近づくにつれ、セリはヒートアップ！みなさんの木を見る眼光鋭い目と、見え隠れするピンと張った緊張感にこちらも思わず見入ってしまいます。売買は立方メートル(m³)単位で行われます。以下は上の台詞解説。こちらの元は…こちらの元玉は38あります…末口直径が38cmあります。

左/木口につけられた多摩産材認証マーク
右/多摩木材センター
東京都内唯一の原木市場。セリが行われるのは毎月25日。13時から始まって15時から16時には終了します。

